阿蘇山の神と仏

火山信仰文化ガイド

古（いにしえ）から続く祈りの場

火を噴く壮大な阿蘇火山は、古くから自然神としてあがめられてきました。阿蘇中岳の噴火口は周囲4キロと巨大で、激しく白い噴煙を上げる様子を間近で見ることができます。

（表紙写真提供：ジェットヘリサービス）

参考文献

阿蘇町町史編さん委員会編『阿蘇町史 第一巻　通史編』2004年　阿蘇町

九州山岳霊場遺跡研究会・九州歴史資料館編『肥後の山岳霊場遺跡―池辺寺と阿蘇山を中心に―』2018年 九州山岳霊場遺跡研究会

熊本県教育委員会『熊本県文化財調査報告　第49集 古坊中　―熊本県阿蘇郡阿蘇町・白水村』1980年

佐藤征子著『一の宮町史　自然と文化 阿蘇選書⑪　神々と祭の姿』1998年　一の宮町

監　　修　佐藤 征子（日本山岳修験学会）

発　　行　阿蘇カルデラツーリズム推進協議会（事務局　阿蘇市経済部観光課）

火口は「神様」だった

神話の時代

山の平穏を祈って御幣を火口に投げ入れる「火口鎮祭」。千年以上も続いています。現在は毎年6月10日に行われています。

外輪山が唯一途切れている立野地域。「健磐龍命が蹴破った」という伝説があります。（立野火口瀬の西側からドローンで撮影）

神様の名は「健磐龍命（たけいわたつのみこと）」

『続日本後紀』には、火口のことは「健磐龍命神霊池」と書かれています。神話では健磐龍命は初代・神武天皇の孫。「阿蘇谷はかつて水をたたえた湖でしたが、健磐龍命が外輪山の立野を蹴破って、水を流して平野にした」という伝説があります。

祈祷、読経で噴火鎮め

阿蘇の噴火は、国家的な大事件の予兆と意識されていました。このため朝廷は異変を鎮めるため、読経と祈祷を繰り返していました。平安時代の歌人、源俊頼は「世にわびて浪たちまちに有るなれどあそのみ池に幣たてまつる」と詠んでいます。当時から幣を奉っていたことが分かります。

中国の歴史書に登場

中国の隋時代の歴史書、『隋書』倭国伝に「阿蘇山」が登場します。「民は祈りの祭りを行っている」と書かれており、阿蘇山に対して信仰を寄せていることがわかります。火山がない中国からの使節にとって、火を噴く山は印象深かったのでしょう。

山林修行の聖地だった

古坊中の時代

霊山として畏敬　修行僧集まる

日本に大陸から仏教が伝来したのは6世紀ごろ。仏陀の教えの一つに山林修行があります。奈良時代、各地の霊山に入って修行する僧侶が多くいました。阿蘇山も霊山として畏敬され、僧侶たちが山林修行のため集まってきました。

山上に37坊が並ぶ

山岳仏教の一大霊場となった阿蘇山上には、37坊が立ち並びました。坊の集まりである古坊中には数百人が住んでいたとされます。読経がこだまし、ほら貝が吹き鳴らされていたことでしょう。今では想像できない壮観な光景が広がっていました。

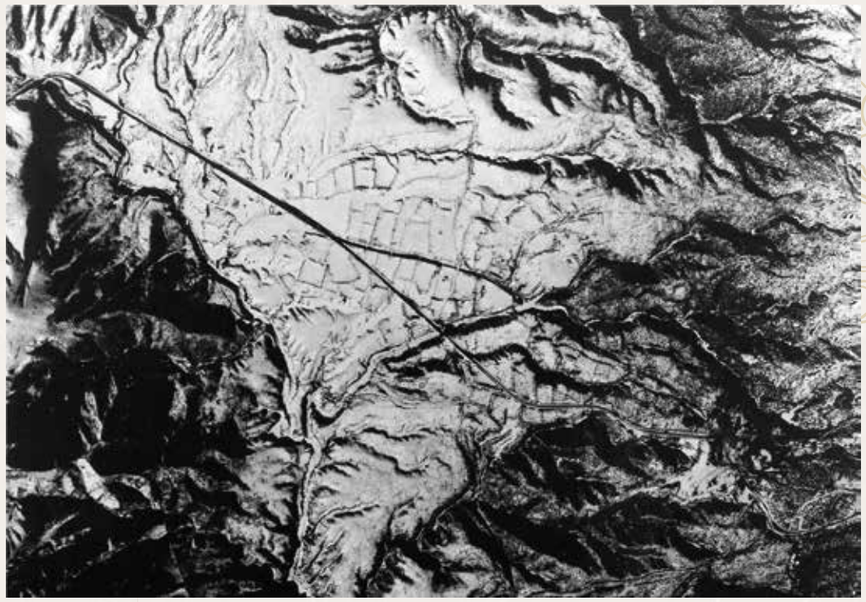
争乱に巻き込まれ四散

戦国時代に入ると、九州各地で勢力争いが繰り広げられます。豊後の大友氏や薩摩の島津氏らとの争いに巻き込まれ、阿蘇山上にあった坊は焼き払われたと伝えられています。僧侶たちは居場所を失い、山を下りました。

現在の古坊中。この地にかつて37坊が立ち並び、読経がこだましていました。一部の石塔が残るだけで、今は多くの僧侶たちが住んでいた跡はうかがえません。

（上）かつて古坊中の中心であった山上本堂の跡地西側には阿蘇山西巌殿寺奥之院があり、現在もなお火口の間近で山岳信仰の法灯を守り受け継いでいます。

（左）阿蘇山を開いたとされる最栄読師は健磐龍命の姿を感得し、十一面観音菩薩を造ったと伝わります。写真は平安時代制作で熊本県指定重要文化財「十一面観音立像」山上本堂本尊（西巌殿寺所蔵、熊本県立美術館寄託）。
画像提供：熊本県立美術館



1957（昭和32）年12月に撮影された古坊中の空中写真。冬の撮影のため積雪しており、坊の区画がわかります。上が北で、左が草千里、右に火口 があります。中央に阿蘇登山道路が見えます。

加藤清正が坊を再興

麓坊中の時代

阿蘇山の麓に再興された坊を描いた「麓坊中絵図」。中央の道路は旧道として今も残っています。(西巌殿寺所蔵、熊本大学附属図書館寄託)画像提供:肥後の里山ギャラリー

麓に再び37坊が並ぶ

「加藤清正が朝鮮出兵した際、苦戦していると援護する矢が飛んできた。矢を見てみると『阿蘇山長善坊』の文字があった」という伝説があり、清正が坊を再興するきっかけになったと伝わります。阿蘇山の麓に37坊が再興されます。「麓坊中」と呼び、「古坊中」と区別されます。麓坊中は現在の阿蘇市黒川付近です。

彼岸にはお池参り

山上にも30数社の堂社が再建され、彼岸には麓坊中から山に登ってお参りする人たちがたくさんいました。出店もあり、にぎわっていました。彼岸の後には「お池から水が湧き出て、不浄を洗い流した」という伝説があります。

廃藩置県で廃寺に

彼岸の時季になると大勢の参拝客が来た阿蘇山でしたが、明治時代に入ると、再び試練に直面します。明治政府は廃藩置県を行います。1871(明治4)年、熊本県は社寺に対して与えていた扶持米を引き揚げることを通達。寺として存続していくことができなくなり、廃寺が決定します。

(上)阿蘇市黒川には修行僧である「行者」にちなんだ「行者通り」があります。通り周辺には坊の跡の石塔などが残り、麓坊中をしのぶことができます。

(下)仲小路通りを南に歩くと、突き当たりに阿蘇山西巌殿寺の階段があります。

坊中散策マップ

阿蘇市黒川の坊中地区には、かつてたくさんの坊や庵がありました。麓坊中の跡を散策するコースの一つを紹介します。当時に思いを馳せながら、めぐってみませんか。

阿蘇山西巌殿寺は、麓坊中の中心的存在だった学頭坊の跡です。

- ● **衆徒坊跡**　1：学頭坊　2：成満院　3：万福院　4：大宝院　5：福満坊　6：長善坊　7：了覚坊　8：浄教院　9：万楽坊
- ■ **行者坊跡**　10：道場坊　11：鏡一坊　12：幸宝坊　13：那羅延坊 14：妙円坊　15：円達坊　16：鏡珍坊
- ◆ **山伏庵跡**　17：頼現坊　18：実相坊　19：福蔵坊　20：万祐坊　21：善了坊　22：円照坊 23：金光坊　24：福泉坊　25：円林坊 26：覚祐坊 27：養福坊　28：本了坊
- ▲ **行者祈祷所跡**